

新設中学校開校に係る住民意見（パブリックコメント）に対して寄せられた意見及び教育委員会の考え方について

紀美野町教育委員会では、新設中学校開校に関する住民意見（パブリックコメント）を募集したところ、以下のとおりご意見をいただきました。

つきましては、お寄せいただいたご意見の概要と紀美野町教育委員会の考え方について公表します。

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

●意見募集期間 令和4年6月22日～令和4年7月21日 ※既に終了しています

●ご意見の件数 2件

番号	ご意見の概要	ご意見に対する教育委員会の考え方
1	日本社会は大人数の会社や機関に勤めて生きていく未来には進まないと考えています。小さい中学校は小さいなりの社会的存在意義や価値が年々高まっていくと思います。そういったことから美里中学校は残すべき。 予算が無いというのなら美里天文台を廃止してでも美里中学校を残してほしい。	少人数学級においては、生徒の個性や特性に応じた教育活動がしやすく、個々の能力や適性を伸ばしやすい。異学年交流による教育活動により、全校的な生徒の交流が深まりやすいなどのメリットがあります。他方、人数が多くなることにより、体育や音楽、体育祭等の集団活動や協働作業などでの学習内容の深まりや広まりが期待できると共に、多様な価値観に触れることにより社会性が育ち自己啓発につながるというメリットが見込めます。 紀美野中学校（仮称）の開校は、予算の問題ではなく、紀美野町の未来を託す生徒に、この町としてできる限りの教育環境を整えることが大切であるという考えに基づいています。 また、「みさと天文台」を多くの方に有効に活用してもらえるようにし、紀美野町の子供たちが将来に渡ってふるさとのシンボルとして、愛着と自負の念を抱けるようにしていきたいと考えています。

新設中学校開校に係る住民意見（パブリックコメント）に対して寄せられた意見及び教育委員会の考え方について

番号	ご意見の概要	ご意見に対する教育委員会の考え方
2	東西に長い紀美野町において、主要な公共施設が西部に集中するのは、東部の人口流出及び人口流入阻害の要因となることを懸念しています。 美里中学校が無くなるのは地元住民にとって大きな損失である。統合するまでに、その後の校舎等跡地の活用についてしっかりと検討していただきたい。 多くの友達と出会うことの重要性は理解しますが、その前段階として自尊心を育むことが最も重要と考えます。新設中学校では、文部科学省が推し進める『生きる力』を育むことに更に注力していただきたい。 情報機器を使いこなすばかりのICT教育でなく、あふれる情報から有用なものを見極める能力も養って欲しい。 英語を使いこなす能力よりも、異文化間コミュニケーションに力を入れ、異なる文化や考え方に触れることを通じ、異質なものを尊重することを学んで欲しい。	校舎のキャパシティや通学バス乗車人数等の問題から、現野上中学校の校舎を利用せざるを得ない状況にあります。 美里中学校は、教育施設として用途廃止することにより、活用の幅が広がることとなります。地域の実情やニーズをよく把握した上で、活性化に繋げていきたいと考えています。 自尊心を育むことについて小学校段階から取り組み、自己有用感・自尊感情を培うことができるよう、また学校生活の中で周囲の仲間から存在価値を認められるように、授業や行事等の集団活動を大切にしています。 また、中学生段階での「生きる力」とは、生涯を通じて学び続けること、多様性を受け入れ他者と協働して課題を解決すること、個性を見出しそれを伸ばし・生かそうとすることなど、それらの行為や考え方に対する価値の良さを見出し、自身の未来に照らし合わせていく力であると考えます。 子どもたちが大人になり社会で活躍する頃には、様々なツールが生活の中にあふれてくることでしょう。現段階でICT活用の基礎を身に付けておくことは必要不可欠な技能であると考えます。ただ、ご指摘のとおり、実体験を軽視せず、本物に触れて学ぶという本質を置き去りにしないように注意しなければならないと考えています。